



# 吉本みづる県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

## 東京湾フェリー支援策で成果

### 港湾使用料の減免実現へ



予算委員会でフェリー支援を訴える吉本充県議

吉本委員 昨年8月1日に東京湾アクアライン料金引き下げの社会実験がスタートし、7カ月余りが経過しました。社会実験開始以来、交通量、特に大型車の増加が顕著であると聞いています。

また、私の地元富津市にあるマザー牧場をはじめ、南房総地域への観光客が増加し、観光産業にも明るい兆しが見えてきているようです。さらに、金田地区へのアウトレットモールの進出決定などの経済的効果も現れています。

本県への旅行頻度が増えた、もしくは増えそうだと回答しています。

一方、東京湾フェリーの輸送車両台数が、国で行った休日の普通車料金1000円が実施された昨年4月から7月までは、対前年度比で22%減少し、社会実験を開始した8月から今年1月までは、25%減少するなどの影響も出ています。

今後、料金引き下げによるプラス効果だけでなく、公共交通機関などへのマイナスの効果も含めて取りまとめていきたいと考えています。

### できる限りの支援約束

吉本委員 フェリーへの支援は、すでに多くの都道府県で港湾使用料の減免、利用客増加策への支援、運賃引き下げへの支援等が実施されています。本県でも、9月県議会でフェリー支援策を求める請願が採択されています。9月議会で知事には、地元市とも連携し、幅広く支援策を検討していきたいと積極的な姿勢を示していただきましたが、これまでの検討結果はどうか。

森田知事 これまで、支援策について幅広い視点から全庁的な検討を進めてまいりました。まず、港湾使用料等の減免については、対岸の港湾管理者である横須賀市と協調して実施してまいりたいと考えております。

### 吉本県議の要望

社会実験が始まった8月から3月までの今年度分の港湾使用料の減免についても、今後のさまざまな支援の検討に合わせて検討していただきたい。

財政的支援は、制度的に厳しいことは理解できますが、東京湾に唯一残った航路を維持することが、南房総地域の半島性を解消する役割を果たし、雇用も生んでいるので、ぜひフェリーへの支援をお願いしたい。

高速道路の料金体系の最終的な第一義の責任は、国にあるので、県は国へ強く要望を申し入れていただきたい。

### 富津市特集

### 2月県議会・予算委員会

初心に返り、県政改革を―と、自らの政治信条実現を目指して3期目の県議会活動に情熱を傾ける富津市選出の吉本充(よしもと・みづる)県議は、千葉県の新年度予算案を審議する2月例会の予算委員会に登壇し、金谷地区の東京湾フェリーへの支援策について、港湾使用料の減免を県に約束させたほか、宿泊・滞在型観光の推進では市町村が実施する関連事業への補助制度を新設させるなど、着々と成果を挙げています。

また、吉本県議の他に人なしと言われる教育問題では、新たにモンスターヘアレント対策で、弁護士など専門家が教育現場を支援する制度を創設させました。有害鳥獣対策も含め、吉本県議の主な質疑を4ページにわたって特集しました。

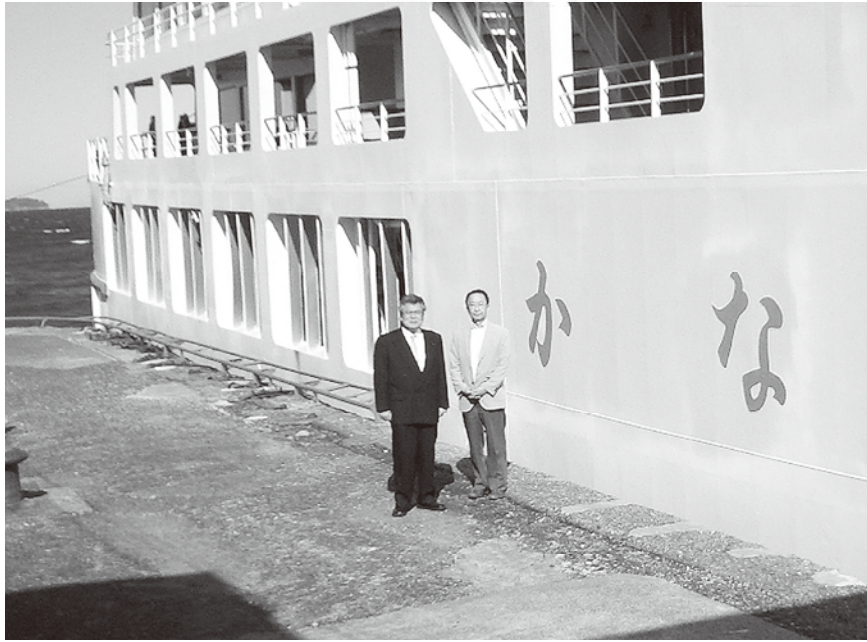
そこで、確認のためにお伺いします。さる2月22日には「第4回東京湾アクアライン料金引き下げ社会実験協議会」が開催され、社会実験の現状が報告されたことですが、その概要を教えてください。

県土整備部長 実験開始から今年1月までのアクアラインの交通量は、対前年度比で52%増加し、南房総地域の主な観光5施設の入込み客数は、14%増加しています。また、協議会で実施したアンケート調査では、千葉県に旅行した方の約4割が、料金引き下げにより、



# フェリー支援と館山道4車線化で観光振興

## 宿泊・滞在型観光に補助制度創設



東京湾フェリーの船体わきで話を聞く吉本県議

### 1日も早い支援実施を

吉本委員 フェリーを活用した観光振興策については、1日も早く事業執行することが地域経済の活性化にとっても、フェリーにとっても大事だと思いが、どうか。

商工労働部長 この事業については、市町村がフェリーなどの観光資源や地域の特性を効果的に活用できる

### フェリー観光をPR

吉本委員 これまでも県観光パンフレットで、フェリー関連の広報を実施していますが、来年度はどのような考えているのか。

商工労働部長 県では、東京湾を本県の重要な観光資源だと考えています。フェ

**最高5百万円まで助成**  
吉本委員 地元富津市を中心に、周辺市町村が連携してフェリーを活用し、宿泊客を増やすための観光振興策について、県の助成制度を活用することを検討しているというが、どのような制度なのか。  
商工労働部長 県では、観光振興による地域活性化のため、経済効果の高い宿泊・滞在型観光の推進が必要だと考えています。そこで、平成22年度から、宿泊につながる市町村の取り組み



東京湾フェリーの乗り場

吉本委員 フェリーを活用した観光振興策については、1日も早く事業執行することが地域経済の活性化にとっても、フェリーにとっても大事だと思いが、どうか。

商工労働部長 この事業については、市町村がフェリーなどの観光資源や地域の特性を効果的に活用できる

### 館山道4車線化を強く要望

吉本委員 館山道の4車線化は21年5月に国において正式決定され、6月県議会でもこの負担金63億円余りの補正予算を議決しました。

その後、新聞によれば「民主県連が党本部から4車線化が政府予算案に盛り込まれると連絡があった」と報道されました

吉本委員 館山道の4車線化は21年5月に国において正式決定され、6月県議会でもこの負担金63億円余りの補正予算を議決しました。しかしながら、昨年10月には国の補正予算の見直しにより、執行停止されました。その後、新聞によれば「民主県連が党本部から4車線化が政府予算案に盛り込まれると連絡があった」と報道されました

が、正確な状況は伝えられていません。本年度事業で凍結となった館山道4車線化については、現在の状況はどうなっているのか。



県議会一般質問に登壇し県政を質す吉本県議

吉本委員 検討中とのことだが、どのような検討がされているのか。  
県土整備部長 館山道4車線化事業は、新聞等によれば、凍結解除の報道がありました。国からは本年2月に説明があり、引き続き「検討中」となっているところですが、  
吉本委員 検討中とのことだが、どのような検討がされているのか。  
森田知事 現在、アクアラインの料金引き下げ等の効果によって、本路線の交通量が増加し、渋滞が増加している現状であり、南房総地域のポテンシャルを開花させるためにも、4車線化の早期整備が必要と考えております。本事業が、速やかに予算化されるように、今後も沿線市町村と一丸となつて国に働きかけてまいります。

### 必要な負担措置を実施

吉本委員 事業手法によっては、地方負担が必要になる場合もあると思うが、その際には、県として予算措置をするのか。  
県土整備部長 現段階では不透明であり、今後、国で事業手法が検討されることになり。仮に地方負担を求められた場合、県として必要な措置を取っていきたく考えております。  
吉本委員 県は、館山道4車線化に向けて、国に対して働きかけていくべきと



# 有害鳥獣対策は緊急課題

## 被害区域が北部へ拡大

吉本委員 県内の有害鳥獣による農作物被害は、依然として深刻な状況にあり、平成20年度の被害総額は約4億2千万円に及んでいます。この被害額は、農家から報告のあった額で、あまりの被害に泣く泣く耕作を断念した農家や、自家用の農作物の被害もあると聞いており、実際にはさらに深刻な状況にあると思われます。

また、被害額の最も大きいイノシシによる被害は、県の中南部にとどまらず、

農林水産部長 野生鳥獣による農作物の被害状況調査では、イノシシによる被害区域は、平成19年度までは、夷隅、安房、君津地域などの県中南部に集中していましたが、平成20年度には海匝、山武地域でも新たな被害が報告されており、被害区域が拡大しています。

## 野生鳥獣対策本部で

吉本委員 特に農山村では、過疎化や高齢化が進んでおり、こうした深刻な農作物被害は、農家の生産意欲を減退させ、耕作放棄地の増加、さらには地域農業の衰退につながるのではないかと危惧しています。県は、野生鳥獣対策本部を設置し、被害対策に取り組んでいると聞く



捕獲檻を前に住民らから話を聞く吉本県議

が、農作物被害対策にどのように取り組んでいるのか。農林水産部長 県は、イノシシなど野生鳥獣による農作物の被害対策を総合的に推進するため、県市町村、関係団体で構成する「千葉県野生鳥獣対策本部」

# 深刻な農作物被害の現状訴え

を平成19年1月に設置したところです。対策本部では、防護柵設置や捕獲に対する助成、イノシシ肉の活用や生息環境の研究などに取り組んでいます。

## 防護柵設置に十分な補助を

吉本委員 防護柵の設置に対する助成については、被害地域からの要望を満たしているのか。農林水産部長 県では、防護柵の設置に対する助成を行うに当たり、各市町村から聞き取りを行い、被害地域の要望を把握しています。農作物被害を受けている市町村からの要望を踏まえ、平成22年度も本年度以上の予算を計上し、必要な予算確保に努めています。

## シカの捕獲方法も研究

吉本委員 有害鳥獣捕獲の担い手の減少や高齢化が進行している中で、より効果的な被害対策が必要かと思いが、どうか。環境生活部長 県としては、より効果的な対策が必要と考えており、本年度からイノシシなど野生鳥獣の隠れ場となっている休耕田・森林下草の刈払いやサルなどの追い払い・追い上げを行い、その効果について実証試験を実施しているところです。また、来年度は、生息数

など、現実に即した対応を対策本部で検討・研究していただきたい。また、予算を削ることなく増額していただきたい。

## 安全対策の周知徹底を

吉本委員 昨年8月に市町村が実施した有害鳥獣捕獲事業で、猟銃の誤射による死亡事故が発生しました。3年前の平成18年8月にも死亡事故が起こっています。県では、安全対策の周知徹底を図っていることですが、県の役割として一層の安全対策を講ずるべきではないかと考えます。そこで、有害鳥獣捕獲による事故を防止するため、捕獲員に対する研修の充実や訓練の場の確保など、安全対策を講ずる必要があるかと思いが、どうか。



イノシシ撃退用の防護柵を見る吉本県議

環境生活部長 安全対策の一層の徹底を図るためには、捕獲員に対する研修の充実や射撃訓練は重要だと考えています。このため、

捕獲は行っているも、被害地域は拡大しており、抜本的に捕獲を考えないと、追いつかないという思いをしています。ぜひとも、さまざまな機会を設けて捕獲に対する支援等を検討していただきたい。



# モンスターペアレント対策

# 学校支援に新制度創設

## 弁護士など専門家が対応

**吉本委員** 新年度に県教育庁が予算化した学校問題解決支援対策事業の100万円の内容は何か。

**県教育長** この事業は、弁護士、精神科医、臨床心理士、民生委員等の専門家の協力を得て「学校問題解決支援チーム」を設置し、学校だけでは解決困難な事例について、具体的な解決方策などを検討し、学校や市町村を支援していくものです。予算の100万円は、こうした専門家への相談業務に対する報償費を計上したものです。

**吉本委員** 専門家に相談が必要な案件は、どれくらいあるのか。

**県教育長** どの学校でも保護者とのトラブルや地域住民からのさまざまな苦情が寄せられているところであり、基本的には、校長や市町村教育委員会が対応していますが、中には生徒とぶつかりケガをしたからと法的な賠償を要求されたり、教員や学校に対して繰り返

し苦情が寄せられ、通常の話し合いが持てなくなるなど、厳しい対応に迫られる事例もあります。

**吉本委員** 先進事例の東京都の場合は、どのような状況か。

**県教育長** 東京都は今年度から、専属スタッフが常駐する体制を設けるとともに、必要に応じて、解決困難な事例については、専門家で構成する会議で公平中立的な立場で解決策を提示し、学校支援に当たっていると聞いておりま

す。これまでの相談状況は、昨年5月から7カ月間で約110件の相談を受け、専門家を検討した案件は約10件程度とのこと

**吉本委員** 無償化の範囲はどこまでか。すべて無料になると考えてよいのか。

**県教育長** 法案によると、公立高校の授業料無償化の対象範囲は、全日制、定時制及び通信制、中等教育学校の後期課程及び、特別支援学校の高等部であり、専攻科及び別科は除かれています。また、無償化は授業料のみで、入学金、入学検査料及び聴講料のほか、修学旅行費や生徒会費等の経費は、従来どおり個人負担となります。

## 公立高校授業料無償化 制度の矛盾を厳しく指摘

### 遊びの中で体力向上を!

**吉本委員** 現政権がマニフェストで約束した公立高校の授業料無償化ですが、一般県民は、公立高校はすべて無料になると思っている人が多いが、無償化の概要はどこまで決まったのか。

**吉本委員** 日本の子供たちの体力テスト数値は、右肩下がりに下がっています。6、7年前から子供の体力テストで、小学生の背筋テストが検査項目から外れました。どうして外れたのか、私も体育指導者ですから調べたところ、腰痛になつてしまつて子供がたくさん出て、文科省はびびくりして止めたというのが現状です。今、子供たちの間で外遊びをしない子供が50%を占めるというデータがあります。私の地域のある学校では、3年間、裸足で学校を

制及び通信制、中等教育学校の後期課程及び、特別支援学校の高等部であり、専攻科及び別科は除かれています。また、無償化は授業料のみで、入学金、入学検査料及び聴講料のほか、修学旅行費や生徒会費等の経費は、従来どおり個人負担となります。

**吉本委員** 留年者の授業料は、現在国会で審議中であり、詳細は明らかになつておりません。

**吉本委員** 授業料相当額の財源が国からどのように交付されてくるのか。

**県教育長** 公立高校授業料不徴収交付金として、県に交付されますが、現時点では、国からの具体的な算定方法等は示されていません。

学校現場では、いろいろな困難な点もあるとは思いますが、授業の合間など遊びの中で、ぜひ体力を向上させる取り組みを行っていただきたい。



副委員長として予算委員会を仕切る吉本みつる県議

2月県議会・予算委員会  
富津市  
初心忘れず  
県政改革!  
吉本みつる  
よしもと  
充

### 吉本 充 県議プロフィール

- 略歴
- 昭和31年12月 富津市に生まれる
- 昭和54年3月 國學院大學卒業
- 昭和54年4月 富津市役所に奉職
- 平成8年4月 富津市議会議員に初当選
- 平成11年4月 千葉県議会議員に当選
- 平成15年4月 // 再選
- 平成19年4月 // 3選
- 警察企業常任委員長
- 文教常任委員長

- 現職
- 県議会 文教常任委員会委員
- // 土石採取対策審議会委員
- 自民党県連広報本部長、政調会文教部会員
- 富津市スポーツ少年団本部長
- 天羽剣志会代表
- 富津市文化協会会長

## 市民の声を県政に届けます

県政や富津市のご相談、ご意見を聞かせてください  
**吉本 充 県議事務所** 〒293-0006 富津市下飯野1114-2  
TEL.0439-80-1885